

社会労働研究 11巻4号 : 奥付

雑誌名	社会労働研究
巻	11
号	4
発行年	1965-03-20
URL	http://hdl.handle.net/10114/00017674

学会消息

○ 四年間の課業を無事修了され、ここに卒業の日を迎えられることになった学生会員のみなさんに心からお祝いの意を表したいと思います。これからは、学生時代と異なり、多くの困難に直面されることと思いますが、挫けることなく、よき社会人として成長されることを心から期待致します。

○ 近江谷駒教授（筆名小牧近江）は、このほど古稀を迎えられ、法政大学の内規によりこの三月で定年退職されることになりました。社会学部の教員で定年退職されるのは、近江谷教授がはじめてであります。近江谷教授の最終講義は、さる一月十八日（月）、五四二番教室でおこなわれましたが、そのさい、湯川和夫学部長は、永年、学生の教育と指導にあたられてきた近江谷教授の御労苦に感謝の挨拶を述べられ、ついで、教員を代表して村山重忠教授が、また近江谷ゼミナール学生を代表して吉田晴彦君（応用経済学科四年）がそれぞれ記念品を贈呈されました。

○ 当学会においても、近江谷教授の御退職を記念して、ごらんのように、最終

講義のさいの湯川学部長の挨拶と、田沼肇教授にお骨折り頂いて、近江谷教授の略年譜を載せました。なお、その他に、社会学部有志諸教授の発起で、法政大学出版局から、小牧近江著「ある現代史——『種蒔く人』前後——」（五月発行予定）が出版されることになっています。御退職後もいままで同様、近江谷教授が元氣かくしゃくとした生活を送られるようお祈りします。

○ 田代正夫教授は、法政大学在外研究員として、昨年四月よりイギリスで主に経済学史の研究に従事しておられました。が、御病氣のため、昨年十一月末、研究中途にして帰国されました。さいわい、その後の経過は順調で、四月の新学期からは教壇に復帰される見通しです。

○ 田沼肇教授は、旧冬十二月十四日、原水爆禁止日本協議会の代表団の一員として、インドネシアに行かれ、三週間余にわたってインドネシア各地を訪問されたのち、一月九日、帰国されました。

○ 土生長穂助教授は、日本アジア・アフリカ連帯委員会を主とする日本代表団の一員として、アジア・アフリカ経済ゼミナールに参加するため、さる二月十六日、アルジェリアのアルジェへ行かれま

した。

○ 長谷川博教授は、中日友好協会の招待で、中華人民共和国の教育事情視察のため、三月六日、出発されました。

○ 卒業生でひきつづきこの「社会労働研究」の購読を希望される方は、購読料（年額三百円）を法政大学社会学部資料室（東京都千代田区富士見町三ノ一）宛に書留でお送り下さい。

社会労働研究

第十一巻 第四号

（通巻第二十二号）

一九六五年三月二十日

東京都千代田区富士見町三の一
法政大学研究室

編集者 長谷川 博
発行者

印刷者 東京都千代田区神田美土代町十八
山 根 正 男

発行者 東京都千代田区富士見町三の一
法政大学社会学部学会